

## 建築展から学び知る

2019年1月19日、JIA三重では建築家の小堀哲夫氏を招いて講演会が開催されました。場所は津市のアストホールにて行われ、大勢の方々にご来場いただき賑わいをみせていました。そして今回は講演会と同日時にアストホールのホワイエにて建築展を開催しました。

来場者に向けて各会員の仕事や活動について、展示作品を通じて周知を図るとともに、各会員の現在(いま)を知る機会をつくることを目的としました。JIA三重の建築展は2013年以來の開催となり、私を含め、近年入会した会員にとって、先輩会員との親交を深める良いタイミングだと考えられました。

展示は研究・社会活動委員会の事業の一環とされ、企画・運営は委員会所属の私と先輩会員の2人で担当することになりました。先輩と私はともに準会員であり、これまでに準会員のみで事業企画を進めていく例がなかったため、当初は戸惑い気後れる部分もありましたが、委員長からはわれわれが主導で働きかけることが今後の三重地域会にとっても活力となり、意義のある成果をもたらすことだと背中を押してもらいました。

今回の建築展のテーマは「けんちくと三重

とじぶん」です。三重の地で風景をつくる建築家たちがどのような視点で建築と向き合っているかを展示することで、その地の風土の過去、今、未来が見えてくる。それは多様な豊かさの重なりであり、今後の建築や三重のまち並みに新しい気付きの視点をもたらすのではないかと考えました。

展示には18名に出展していただきました。三重各地の地域性や文化、環境の影響から特有の色が生まれているのではないかと期待も広がります。当日会場には、出展者が手掛けた建築実例や計画のパネル紹介や模型、テキスト主体でまとめた作品、写真作品などが展示されました。各作品からは建築への想いやアプローチの方法が伝わり、各々によるテーマへの回答をいただきました。

講演会が始まるまでの間、また終わってからたくさんの来場者が興味を持って展示を見て回る光景に今日までの働きが報われたように思いました。

来場者と会員との交流もあり、講演後には小堀氏にもご観覧いただき、出展者にとって貴重な時間となりました。

この建築展では新しい試みとして会員以外の三重県で活動されている建築士に参加

を推薦できる方々にも出展を依頼しました。これをきっかけにJIAに関心を持ってもらい、互いの理解を深め、ゆくゆくは同士として会員増強にもつながるのではないかと想いを込めた次第です。非会員の出展者の中には、建築士事務所を構えられて、設計施工を行う工務店・大工の方々も受け付けました。この判断においてはJIAの規定、地域会規則に対して正会員からも意見が挙がり、役員会や委員会において協議を行いました。現状、新規入会が僅少な三重地域会を活性化させるための試行として実施することになりました。

賛否両論あり、団体組織であることの難しさもありますが、これからのJIA三重の事業を成功させるために多くの会員が支え補い合う関係が新しく築いていけることを願っています。

準会員の先輩、出展者の方々、役員・正会員の方々、法人協力会員の方々のお力添えでやり遂げることができました。本当にありがとうございました。



豊田直樹 (JIA 三重) |  
Y's 建築設計事務所



多くの来場者が足を運び賑わいを見せた。会員との交流もあり貴重な時間となった



展示方法にも工夫がみられた



講演会講師の小堀氏と作品について語る